

《薬局サーベイランスコメント》

『インフルエンザの患者数は大幅に増加しており、現状のままでは12月には流行は本格的なものとなると予想される』

2016年11月22日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

今シーズン（2016/2017年シーズン）の2016年第46週（11月14日～20日）の全国のインフルエンザ推定患者数は、薬局サーベイランス（<http://prescription.orca.med.or.jp/kanjyasuikei/index.html>）によると55,326であり、第33週以降14週間連続して増加が続いていることに加えて、第45週（11月7日～13日）の推定値（31,087）を大きく上回りました（図1）。休日明けの第47週（今週）の月曜日（11月21日）の推定患者数は16,282と第46週の月曜日の値（9,792）を大幅に上回っており、今週は更に患者数が増加してくるものと思われます。

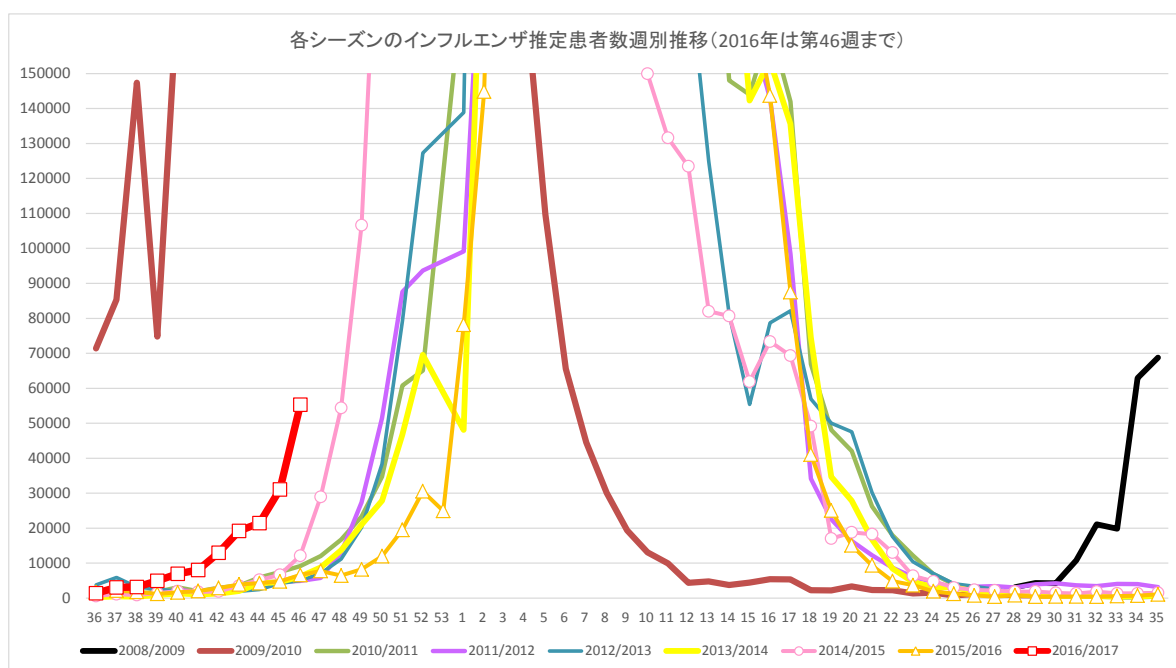


図1. 過去6シーズンと今シーズン（2016/2017シーズン）のインフルエンザ推定患者数の週別推移

各都道府県別の第45週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると、北海道、沖縄県、富山県、福井県、栃木県、岩手県、奈良県、石川県、東京都、群馬県、宮城県、埼玉県の順となっています。北陸地方と関東地方の患者数の増加が目立ちますし、

首都圏でのインフルエンザの流行拡大はすぐに全国に波及すると思われます。

2016年第36週から第46週までの累積の推定患者数は167,622であり、年齢群別では40～49歳（13.7%）、10～14歳（12.7%）、30～39歳（12.5%）、5～9歳（12.5%）、20～29歳（10.7%）、15～19歳8.9%の順となっています（図2）。第46週の1週間では5～9歳が15.4%（推定患者数8,503）と最多を占めており、19歳以下の患者数の増加が目立ってきています。

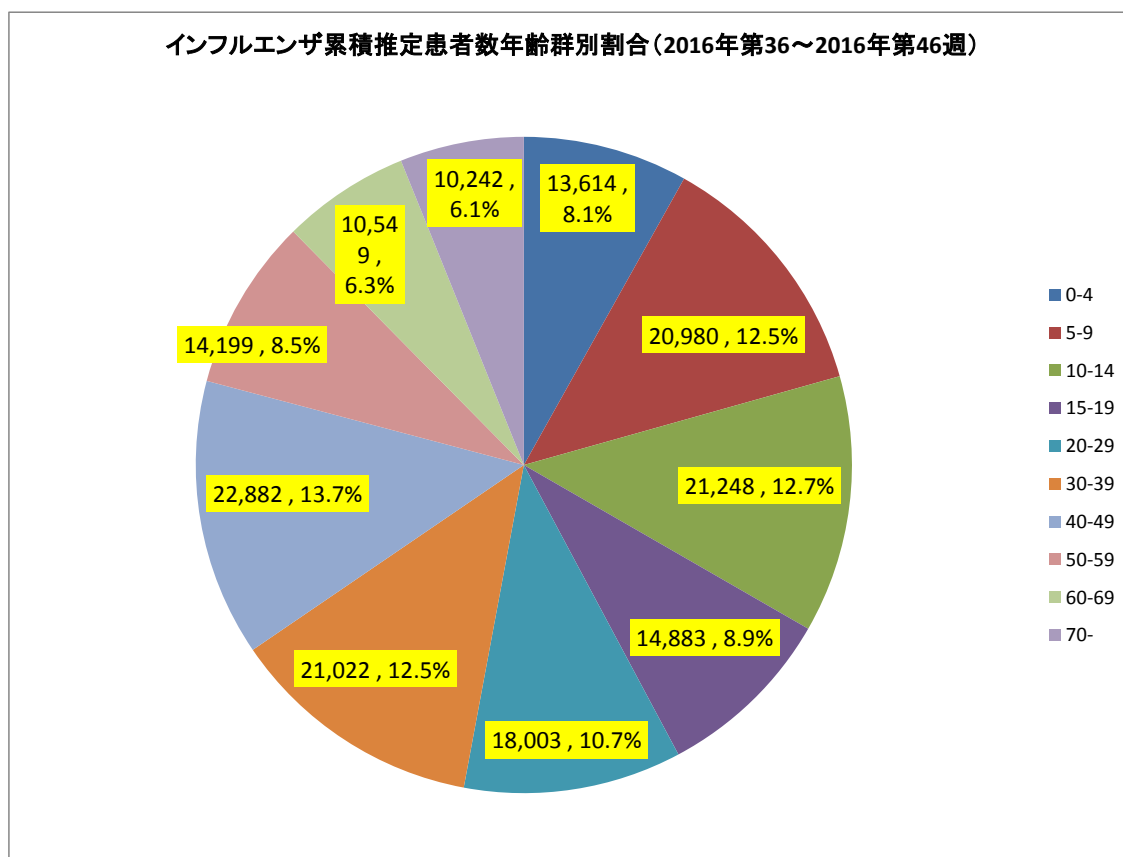


図2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合（2016年第36～2016年第46週、累積推定患者数=167,622）

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>）によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（187検体解析）は、A/H3（A香港）亜型が87.7%と大半を占めており、次いでA/H1pdm 10.2%、B型2.1%の順となっています（図3）。

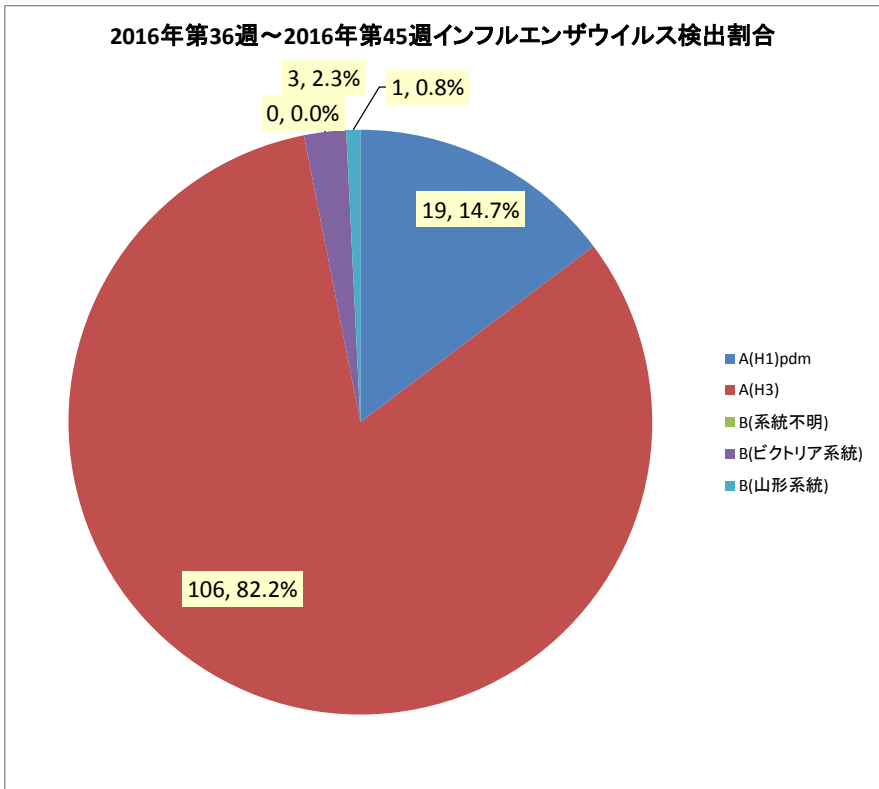


図3. 2016年第36～2016年第45週インフルエンザウイルス検出割合 (総検出数=187)

今シーズンは既に第45週よりインフルエンザの全国的な流行が始まっていますが、現在の状況が続けば12月に入って本格的な流行となることが予想されます。今後のインフルエンザの患者発生動向については注意してください。